



令和8年7月3日

報道関係者 各位

文化国際部長 日暮 真司

永井荷風文学賞候補作について

この度、市川市と三田文学会とで組織する「永井荷風文学賞実行委員会」にて、第二回永井荷風文学賞の候補作を下記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。

本文学賞は、永井荷風の広範な領域で卓越した業績を称え、その年における最も優れた文芸作品に授与されます。昨年、記念すべき第一回を大きな注目の中で開催し、今回が第二回の開催となります。

選考には第一回に引き続き安藤礼二氏・岡田利規氏・金原ひとみ氏・蜂飼耳氏・松浦寿輝氏らが当たり、ジャンルを越えた討論により、各氏が選出した候補作の中から、受賞作一作が決定されます。またこの文学賞には、公募型（小説・評論）の「永井荷風新人賞」が併設されており、そちらの選考も別途進行しているところです。

記

1. 候補作

*刊行・発表順

沢木耕太郎

『暦のしずく』（朝日新聞出版）

イ・ラン著、斎藤真理子訳、浜辺ふう訳

『声を出して、呼びかけて、話せばいいの』（河出書房新社）

東浩紀

『平和と愚かさ』（ゲンロン）

カゲヤマ气象台

『いまのところまだ存在しているわたしのたましいが……』（私家版）

井戸川射子

『中座を横から見た scene』（思潮社）

なお、永井荷風文学賞及び新人賞受賞作は8月ごろの発表を予定しております。発表の際にはあらためてお知らせいたします。

【問い合わせ】

文化国際部 文学課長 堀 優子

電話 047-320-3334